



● (中) ●

# 新聞活用で読解力アップ

次期学習指導要領では、読解力の向上に向けて、授業で複数の新聞を活用することも盛り込まれている。文部科学省は「まとまった量の文章や」

「主体的・対話的で深い学び」に加え、読解力の向上や

物事を多面的に捉える力をつけるため、新聞の積極的な活用をうたっているのだ。

尾木ママの愛称で知られる

教育評論家の尾木直樹氏は、40年以上にわたり、中学校などで自らも新聞を活用した授業を行ってきた経験があるといい、「新聞の活用はアクティブラーニングにもつながる」と訴える。

世界72カ国・地域の15歳を対象に義務教育で学んだ知識や技能を実生活で活用する力をみる国際学習到達度調査(PISA)の2015年調査。日本は「科学的応用力」が前回2012年調査の4位から2位に浮上、「数学的応用力」は7位から5位に浮上し、「脱ゆとり教育」の効果

PISA(2015年)平均得点の比較 ( )は前回順位

順位	科学的 応用力	数学的 応用力	読解力
1	(3)シンガポール	(2)シンガポール	(3)シンガポール
2	(4)日本	(3)香港	(2)香港
3	(6)エストニア	(6)マカオ	(9)カナダ
4	(13)台湾	(4)台湾	(6)フィンランド
5	(5)フィンランド	(7)日本	(7)アイルランド
6	(17)マカオ	(1)北京・上海・江蘇・広東※	(11)エストニア
7	(10)カナダ	(5)韓国	(5)韓国
8	(8)ベトナム	(9)スイス	(4)日本

※前回は上海が単独参加



新聞の有用性について語る尾木直樹氏

国際学習到達度調査(PISA)が実施する国際的な学力調査。15歳を対象に2000年から3年ごとに実施。出題は「科学的応用力」「数学的応用力」「読解力」の3分野で、解答までのプロセスや概念の理解が重視される。

## 幅広い情報、広がる視野

# 親・教師が読む姿勢を

で深い学びにつながる」と分析する。

いまやニュースはインターネットでも配信されているが、尾木氏はあえて新聞を使い続けた。「広告も含めたさまざまなジャンルの情報が入る新聞と異なり、関心のある情報しか見ないネットでは視野が広がらない」からだという。

ただ、今の若い教師たちに新聞を使った授業を行うように促そうにも「教師自身が新聞を読んでいないということも少なくない」と嘆く。

尾木氏は「新聞を教材にするにはまず教員が新聞を読んでも同僚と話し合い、一社会人としての器を広げなければならぬ」と提案。そのうえで、「親が家で新聞を読んでいく姿も子供に見せていかなくてはならないのではないかと」とも話していた。